第○学年　　国語科学習指導案

以下の①から④を活用して学習指導案を作成すること　　　　（※この注意書きは確認後に削除してください。）

①小学校(中学校)学習指導要領解説 各教科 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文部科学省

②『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』 　　　　　　国立教育政策研究所

③学力向上推進５か年プラン・プロジェクトⅡ　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　沖縄県教育委員会

④「問い」が生まれる授業サポートガイド　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　沖縄県教育委員会

⑤生徒指導提要（改訂版）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和４年１２月　文部科学省

令和○年○○月○○日○校時

○○□立○○□学校

○年○組　計○○名

授業者　○○　○○

**【年間指導計画の位置付け　　○○学年　　○○月計画　Ｐ（○○）】**

児童生徒の主体性を引き出すような表現にするとよい。

**1　単元名**　　新聞の社説を読み比べ、書き手の工夫について評価する。

　　　　　　　　～文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる～

○「単元名」は、単元を通して行う言語活動が分かるとともに、身に付けさせたい資質・能力（指導事項）がわかる表記にする。

**２　単元の目標**

※〔知識・技能〕〔思考力・判断力・表現力」は、指導事項の文末を「～することができる。」とする。

※〔学びに向かう力、人間性等〕は、各学年の目標の「言葉がもつ～伝えようとする。」とする。（全ての単元において）

**３　本単元における言語活動**

　　　新聞の社説を読み比べ、書き手の工夫について交流・検討し、評価する。（関連：言語活動例ア）

相手や目的を明確にしておくことが大切。児童生徒が行う言語活動を教師が前もって行い、指導と評価の計画にいかしたり、

児童・生徒に学習の見通しを持たせるため提示したりする。

**４　単元について**

1. **教材観**

〇本単元で目指す資質・能力について、言語活動を通して、どのように身に付けさせていくのかを明記する。（言葉による見方・考え方を働かせる場面・試行錯誤する場面をどう仕組むのか）

〇学校の実態に即した年間計画上の位置づけ、領域の指導事項の系統を意識する。

1. **児童（生徒）観**

〇諸調査等の結果を踏まえた本単元の内容に係る実態及び学習後の変化の見通しを明記する。

※実態については、数値等を用いて具体的に示す。

1. **指導観**

〇学習指導要領解説を読み込んだ上で、「教材観・児童観（生徒観）」を踏まえ、単元全体及び本時の内容をどのように指導していくかを具体的に記述する。

○児童（生徒）理解を基盤とした学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりが大切である。特に本単元で生徒指導の4つのポイントを意識する学習活動、指導について記述する。

【自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 該当する指導事項を記載し、文末を「～している」とする。 | 文頭に当該単元における指導事項について、「（領域名）において、」と明記し、以下、指導事項を記載して文末を「～している。」とする。 | ※作成にあたっては、  「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料小・中P31～33」を参照 |

**５　単元の評価規準**

単元目標に対応するように評価基準を設定する。

主体的に学習に取り組む態度については、

1. 知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面
2. ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

という双方を適切に評価できる評価基準を作成する。文末は「～しようとしている」とする。

**６　単元の指導と評価の計画（全〇時間）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準【評価方法】 |
| 〇 | 児童生徒の活動を具体的に記す。  ※児童生徒にとって単元のゴールに向かうために必要感のある課題解決の過程になるようにする。  　（例：～について話し合う。  ～を書く。Etc.） | 資質能力を育むために必要な支援を具体的に記す。 | 「単元の評価規準」について、評価する場面と評価方法及び（B）の姿を具体的に示す。 |
| 〇 |
| 〇 |

※教科の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元を見通しながら評価の場面や方法を工夫して学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにする。

※記録に残す評価を記載する。（指導に生かす評価のみの場面は空欄になる。）

※「主体的に学習に取り組む態度」の評価は２時間目以降に行う。

**７　本時の学習【○／〇時間】**

（１）本時の目標（本時のねらい）

○単元の目標を踏まえ，本時の具体的な目標を児童生徒の行動目標で書く。

○「本時の目標」、「単元の評価規準」との整合性を図ること。

（２）本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準【評価方法】 |
| 導  入  ○  分 | 児童生徒の立場で書く  前時のふり返り、本時のめあて、学習活動について確認する | 指導者の立場で書く |  |
| 展  開  ○  分 | ・具体的活動内容  ・言語活動  ・形態等 | ・教師の発問  ・教師の具体的な手立て  ・予想される反応  ・形態等  ※Cへの支援・手立てを明  記する。 | ※Bと判断される状況  を、具体的な児童生徒の姿で記す。  ※評価対象を明記する。  ※記録に残す評価を行う時間がわかるように記載する。 |
| 終末  ○分 | 【めあてがどれくらい達成できたか振り返らせる工夫】  【次時の予告】 | ※学習のふり返りを行うとともに、次時への見通しと意欲付けを図ること。  （ノートや端末などの手段、内容等について、意図のある工夫を・・・） |  |

**８　板書計画**

○児童生徒の思考過程に沿った構造的な板書にする。（写真も可、また別紙で大きく示しもよい。）

**９　参考文献**

○参考にした文献・資料等があれば記載する